長期目標【10年後(2036年)に目指す姿】

◆サッカーファミリーの拡大
栃木県内すべての年代・性別の人々がサッカーに触れられる環境がある

◆本県代表の活躍
本県代表チームが全国ベスト4、選手・指導者・審判員が国際舞台で活躍している

◆社会課題への取り組み
サッカーの魅力と可能性を通じて、持続的社会に貢献している

◆サッカー施設の充実
人工芝サッカー場が30面に増加している

◆組織の確立
安定した収入が確保され、ガバナンス・コンプライアンスが根付いた組織となる

中期戦略(重点テーマ)

戦略①キッズ・女子・シニアサッカーの拡充

■ 2031年目標:
年齢・性別・立場を問わず、県内すべての人がサッカーに触れる機会を持ち、生涯スポーツとして根付いている状態を実現する。

■ 主なアクション:
・巡回指導先の未実施地区での開催
・女子限定の指導者ライセンス講習会の開催
・「JFAなでしこひろば“セカンドタッチ”」の定期開催・県内全域展開
・皇后杯などJFA主催全国大会の継続誘致
・大学への女子サッカー部創設に向けた働きかけを継続
・シニアサッカーリーグ再編成
・高校OBによるシニア交流戦の実施

■ 成果イメージ:
・キッズ巡回指導が全市町に展開
・女子の選手・指導者数が増加
・シニアリーグ再編成による競技環境の最適化

中期戦略（重点テーマ）

戦略②競技力向上・育成強化

■ 2031年目標：
育成・指導・審判の体制を再構築し、「本県代表の強さ」が次世代にも受け継がれる持続的競技力の向上を実現する。

■ 主なアクション：
・トレセン制度の再構築・強化
・Jクラブとの育成連携
・指導者の発掘・育成プログラムの整備
・指導者・審判のライセンス取得支援の拡充
・レフェリースタートアップセンター、レフェリースクールの継続開催
・トップレフェリー強化研修会の継続

■ 成果イメージ：
・トレセン再編
・全国・国際大会での県勢活躍
・ライセンス保有率向上

中期戦略（重点テーマ）

戦略③SDGsと連動した「持続可能な地域づくり」

■ 2031年目標：
サッカーを通じた教育・福祉・環境分野への貢献が地域に浸透し、「社会貢献型スポーツ団体」としての認知が定着している。

■ 主なアクション：
・障がい者連盟との連携によるお届け教室の継続開催
・ウォーキングひろばの普及（ウォーキングフットボール）
・フードドライブの定期実施
・スポーツ救命ライセンス講習会の継続開催

■ 成果イメージ：
・障がい者・高齢者支援の定着
・教育・福祉と連動した事業展開

中期戦略（重点テーマ）

戦略④施設整備

■ 2031年目標：
誰もが安全に使える、地域の拠点となるサッカー施設が整備・維持され、県内全域で公平なアクセスが保障されている。

■ 主なアクション：
・行政連携による候補地の提案
・安心・安全な施設整備の提案
・整備・設計計画の立案
・人工芝グラウンドの新設・改修
・付帯設備の改修・増設の提案

■ 成果イメージ：
・誰もが利用できる人工芝グラウンドの拡充と地域拠点化

中期戦略（重点テーマ）

戦略⑤組織・財政基盤の強化

■ 2031年目標：
自立的な収益構造と柔軟な組織運営が整備され、協会が「経営される組織」として機能している状態を確立する。

■ 主なアクション：
・民間企業とのスポンサー戦略の立案
・WebサイトのリニューアルとSNS活用強化
・職員・ボランティアの育成と処遇改善
・委員会体制の見直し（事務局への機能移管）
・規程類の整備とガバナンス強化

■ 成果イメージ：
・安定した財政基盤
・認知度向上
・人材の専門性強化